



2022 年（令和 4 年）3 月 18 日

「プラスチック資源循環促進法」の対象 12 品目に対応した  
**プラスチック使用量の削減計画について**

客室アメニティの一部を竹製・木製へ切り替えなど

2022 年度は年間約 11 トン削減見込み（削減率 約 70%）



竹製・木製を採用した客室アメニティ

株式会社 帝国ホテルは、2022年4月より施行される「プラスチック資源循環促進法」に則り、直営4事業所（東京・大阪・上高地・柏）において、同法が指定する客室アメニティなど対象12品目のプラスチック使用量を年間で約70%削減（対2019年度比）することを目指します。



帝国ホテルグループでは、2001年から続く「環境委員会」を前身とする「サステナビリティ推進委員会」を2020年4月1日に発足させ、SDGsを基盤とした取り組みや活動を積極的に進めております。その一環として、海洋プラスチックごみおよびCO2排出量の削減のため、紙製ストローの採用や、テイクアウト用の使い捨てカトラリーを植物由来の製品に切り換えて有料化するなど、プラスチック使用量削減の取り組みをこれまでも進めてまいりました。

この度、2022年4月より「プラスチック資源循環促進法」が施行されることを受け、剃刀、歯ブラシ、ヘアブラシなどの客室アメニティを竹製・木製に切り換え、また、シャワーキャップや衣類用カバーなどには植物由来の製品を採用するなど、対象12品目すべてにおけるプラスチック使用量削減を順次進めてまいります。それにより、2022年度のプラスチック使用量は2019年度に比べ約11トン（約70.2%）の削減を見込んでおり、その先、従来の在庫がなくなりすべて切り替えが完了する再来年度以降の削減率は87.5%に至ると試算しております。

【対象12品目のプラスチック使用量削減効果見込み】

品目	材質	2019年度 使用量 (kg)	2022年度 使用量 (kg)	2022年度 削減率	全て切替えた場合の 削減率
1 歯ブラシ ①	代替素材(竹製)	4,384	835	81.0%	90.6%
2 ヘアブラシ ②	代替素材(木製)	5,418	1,088	79.9%	100.0%
3 カミソリ ③	代替素材(竹製)	1,965	900	54.2%	81.6%
4 シャワーキャップ	代替素材(バイオマス素材)	429	350	18.4%	40.0%
5 ヘアコーム	提供廃止	1,558	254	83.7%	100.0%
6~8 フォーク、ナイフ、スプーン ④	代替素材(植物由来プラスチック)	390	16	95.9%	100.0%
9 ハンガー	代替素材(植物由来プラスチック)	821	670	18.4%	40.0%
10 衣類用カバー	代替素材(植物由来プラスチック)	740	591	20.1%	40.0%
11 マドラー	繰り返し使用	30	0	100.0%	100.0%
12 ストロー	代替素材(紙製)	55	0	100.0%	100.0%
合計		15,790	4,704	70.2%	87.5%

①



②



③



④



### 【ご参考】 帝国ホテルと SDGs

帝国ホテルは、1890年に日本の迎賓館の役割を担って誕生し、開業のけん引役となった渋沢栄一が初代会長を務めました。渋沢の公益の精神を受け継ぎ、その後も国際社会へ貢献することを謳った企業理念のもと、健全な事業活動を通じて利益の最大化を図るだけ

でなく、環境への配慮、リスク管理、社会貢献、ダイバーシティ推進、コンプライアンスなど、ESG（環境・社会・企業統治）を意識した活動を行ってまいりました。

現在、新型コロナウイルスの感染拡大は、当社グループの事業活動にも大きな影響を及ぼしておりますが、お客さまが安心してご利用いただける衛生環境向上に努めております。

当社グループは、さらなる企業価値向上と持続的成長を目指し、2015年9月に国連サミットで採択されたSDGs（持続可能な開発目標）への対応を積極的に推進するため、取り組むべき課題を検証して11の目標を設定するとともに、2001年から続く従来の「環境委員会」を改め「サステナビリティ推進委員会」を2020年4月1日に発足させ、SDGsを基盤とした取り組みや活動を社内に浸透させる体制を整えました。

これまで特に注力してきた、環境活動、リスク管理、ダイバーシティ推進は、各目標と関係しており、今後もさらなる推進を図るとともに、フードロス削減をはじめとした課題にも積極的に取り組むことで、SDGsの達成に貢献してまいります。

詳細は、こちらのホームページをご参照ください。

<https://www.imperialhotel.co.jp/j/company/csr/index.html>

### 国連が提唱するSDGs（持続可能な開発目標）における当社グループの目標

- 3 すべての人に健康と福祉を
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 7 エネルギーをみんなに そしてグリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

